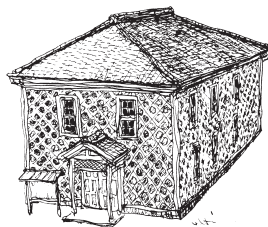


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

●理工学部長

青山藤詞郎
あおやま とうじろう

理工学部創立75年を迎えて

当時、我が国の大学における工業教育が極めて貧弱であり、また外国語、特に英語教育がすこぶる不十分であることなどを憂いていた藤原銀次郎氏は、私財を投じ、1939年に日吉の地に、藤原工業大学を開校しました。米英との対立が深まり、国家統制が進む中で、国際化教育の重要性を唱えた藤原氏の勇気ある姿勢に、改めて敬意を表したいと思います。開校当初は、3学科が設置され、最初に入学を許可された者の数は、合計198名との記録があります。そして開校から5年後に、藤原工業大学は、その全てが慶應義塾に寄贈され、慶應義塾大学工学部が開設されました。その後、戦災復興の苦難の時代を乗り越え、小金井における四半世紀の教育研究活動の発展を経て、1972年に、現在の矢上キャンパスに本拠を構えるに至りました。そして今年、理工学部は創立75年を迎えました。6月14日には、梅雨明けを思わせるような晴天のもと、日吉キャンパスにおいて記念式典が盛大に執り行われました。現在の理工学部は、学科数11学科、大学院理工学研究科を含め学生数は合計約

6100名という、慶應義塾の理工系教育研究を牽引する、一大組織に発展しています。私自身、矢上キャンパス育ちの一期生で、同キャンパスにおける教育研究活動の発展を学生時代から目のあたりにしてきた一人です。理工学部の発展の歴史のなかで、絶えず重要課題として取りあげられているものに、教育研究活動の国際化があります。塾生が在学中に海外インターンシップや本格的な留学などの国際体験を通して異文化に接し、個々の常識の範囲を超えた幅広い経験を積むことで、豊かな創造力を育み、これが将来の社会活動に大いに役立つことを期待しています。

いま我が国の大学は、世界に通用する国際大学としての資質が強く問われています。創立75年を迎えた理工学部は、さらに25年先の創立100年へ向け、真の国際人材を育てるグローバルな教育研究組織として、教職員と塾生諸君が半学半教の精神のもとにたゆまぬ努力を続けることが大切と考えています。